

平成 28 年漁期のハタハタ漁獲対象資源量の予測結果について

今年度から、これまでの漁獲量予測に代わる新たな予測手法として、本県のハタハタ漁獲対象資源量の予測を行いましたので結果をお知らせいたします。なお、10 月～11 月に試験船青鵬丸が実施する漁期前調査と、秋田県の情報を加味し、続報として再度お知らせいたします。

1. 予測方法

青森県沿岸で漁獲されたハタハタ漁獲物を調べ、雌雄別、年齢別の漁獲尾数を推定し、VPA(virtual population analysis)を行い、前進法により青森県における雌雄別、年齢別の漁獲対象資源量を推定しました。

次に、毎年 4 月～7 月に試験船青鵬丸が行っている本県沖合におけるハタハタ雌雄込 1 歳魚分布調査結果（雌雄込）と、VPA で求めた雌雄別 1 歳魚資源量とが有意に回帰した ($p < 0.05$) ことから(図 1)、この関係式を使って平成 28 年漁期に初めて漁獲対象となる 1 歳魚の資源量を求め、VPA の結果と合わせて平成 28 年漁期の本県における 1 歳～3 歳以上の漁獲対象資源量を推定しました。

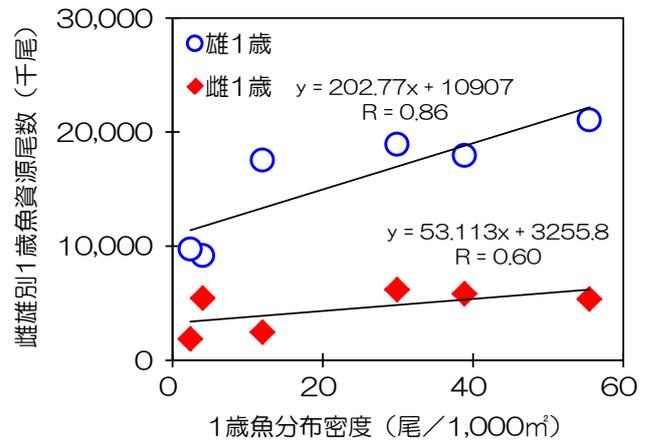


図 1 H22～H25 年の雌雄込 1 歳魚分布密度(青鵬丸調査結果)と雌雄別 1 歳魚資源尾数の関係

2. 結果 —平成 28 年漁期のハタハタ漁獲対象資源—

漁獲対象資源量は前年をやや下回る。年齢構成は 2 歳魚主体。

平成 28 年漁期に本県で漁獲対象となるハタハタ資源量は 1,375 トン(前年比 79%)で、前年をやや下回る水準であると推定されました。また、この結果を年齢別に見ると、1 歳魚が 633 トン、2 歳魚が 601 トンで資源全体の 90%を占めていました。しかし、漁獲対象資源のうち、接岸する割合は 1 歳魚の方が 2 歳魚よりも小さいことから、漁獲の主体は 2 歳魚になると考えられました。

※対前年比±20%未満：並み、21%以上 40%未満：やや、40%以上 60%未満：かなり、60%以上：はなはだ、とする

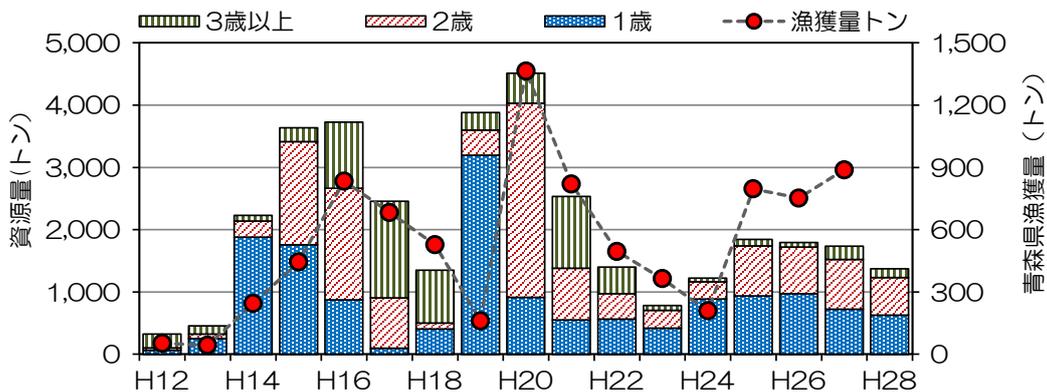


図 2 青森県のハタハタ漁獲対象資源量(棒グラフ)と漁獲量(折線)の動向

用語説明～ **漁獲対象資源量** と **漁獲量** の違いとは？～

漁獲対象資源量とは、**漁獲しうる全体量**を指し、この中にはこれから寿命を迎えたり、捕食されていなくなる分（自然死亡）や、漁獲されずに、その後繁殖して子孫を残す親となる分なども含まれます。

一方、**漁獲量**は**漁獲対象資源量**の中から、**実際に漁獲した量**のことを指します。

一見、漁獲対象資源量が増えればその分漁獲量も増えるように感じられますが、漁獲量の増減には、漁獲対象資源量の他に、出漁した日数、対象資源の年齢構成（2歳魚は漁獲されやすいが、1歳魚は漁獲されにくいなど）、消費者の需要に合わせた漁獲調整といった様々な要因が複雑に関係しており、漁獲対象資源量と漁獲量の動向は必ずしも一致しません。